

# 医学研究実施に関するお知らせ

金沢医科大学

免疫学 教授 小内 伸幸

私たちは「鉄シャペロンポリ C 結合蛋白質 1/2 (PCBP1/2) と免疫制御分子の単核球系貪食細胞における機能と炎症性腸疾患における役割」という医学研究を実施しています。研究概要は以下のとおりです。

## 研究課題名

鉄シャペロン PCBP1/2 と免疫制御分子の単核球系貪食細胞における機能と炎症性腸疾患発症機序の解明

## 研究の意義・目的

### 1. 背景

「潰瘍性大腸炎」や「クローン病」を主とする炎症性腸疾患 (inflammatory bowel disease ; IBD) は発症によって長期間の治療が必要な慢性疾患であるが、未だにその発症原因が明確になっていない。近年、医学の進歩に伴い、腸管マクロファージの免疫制御メカニズムの破綻が本病態の形成の一因であることが指摘されている。我々はこれまで、腸管マクロファージの機能と炎症性疾患発症機序との関係性に注目し、研究を行ってきた。ポリ C 結合蛋白質 1/2 (PCBP1/2) は、細胞質の中において鉄貯蔵蛋白質であるフェリチンへの鉄輸送や生命活動の維持に必要である鉄含有酵素の活性中心の形成など、細胞質における鉄の代謝の中心的役割を担うことが知られている。また、鉄代謝機構の破綻は鉄過剰と鉄欠乏のいずれにおいても疾患との強い関連性が知られており、PCBP1/2 とマクロファージ機能制御の関連性も示唆されている。そこで、データベース上にてヒトの潰瘍性大腸炎やクローン病患者の末梢血中の単核細胞における PCBP1/2 発現量を調べると、その発現上昇が見られることから、炎症性疾患発症と PCBP1/2 の発現レベルには有意な正相関が示唆されている。

### 2. 目的・意義

PCBP1/2 と免疫制御分子のマクロファージにおける機能に着目し、炎症性腸疾患発症機序との関わりを明らかにすることを目指す。

## 研究の対象者・研究期間

本研究では、目標症例数 約 40 名に参加していただく予定です。

研究期間：倫理審査委員会承認後～2029年3月31日まで

調査期間・対象者：2026年2月末までに、潰瘍性大腸炎で診察を受けた方

## 研究の方法・研究に用いる試料・情報の種類

この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。上記期間中に得られた年齢、性別、予後、病期分類等を含む、多岐に亘る臨床病理組織学的パラメーターを、本研究のために使用させていただきます。

研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。

**研究に関するお問い合わせについて**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、研究期間中に下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

**お問い合わせ先**

金沢医科大学 臨床病理 山田 壮亮

住所：〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1

電話：076-286-3511（内線 5057）

**研究責任者**

金沢医科大学 免疫学 教授 小内 伸幸

2026年2月19日作成

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

金沢医科大学 臨床病理学 教授（講座主任）

山田 壮亮 Sohsuke Yamada M.D., Ph.D.

〒920-0293

石川県河北郡内灘町大学 1丁目1番地

[大学 医学教育棟内 3階（病理診断室）・6階（教授室）]

TEL: 076-218-8264 (8280) or 076-286-2211(代) 内線 5341, 5057

FAX: 076-286-3511 or 076-218-8440

Email: [sohsuke@kanazawa-med.ac.jp](mailto:sohsuke@kanazawa-med.ac.jp)

Home page: <https://clinpath.wixsite.com/clinpathsite>